
想いのチカラ

霜月フク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

想いのチカラ

【Nコード】

N4231G

【作者名】

霜月フク

【あらすじ】

今まで女性と付き合った事のない若き官僚『タカシ』。彼の日課は毎朝のランニング。そんな彼が、ある朝目にする美しい女性ランナーとの出会い。ふとした日常からこの物語は始まります・・・

男は年齢〓彼女いない歴だった。

男は焦っていた。

周りは皆、結婚だなんだと言いつ始めている。

男は能力が高かったため官僚の、同期の中でも特に重宝されていた。

男、彼の名は『タカシ』

*

タカシには忙しい日課の中で行う朝のランニングが貴重な気分転換の時間だった。

これは台風や病気の日以外は欠かしたことが無い。

ある朝。

走っていると見知らぬ美しいランナーを見掛けた。

そのランナーは速く、タカシはそのピンと張った背中と引き締まったヒップを見つめることしかできなかった。

しかし、その日から彼の中で何かが変わった。

通勤時は足に重りを付けるようになったし、前より早く起きるよう
にして走る距離も伸ばした。

彼の中で錆びついていた熱い何かが噴火したのだった。

「彼女に追いつきたい」

その一心で目的地の分らない恋の道へ踏み出していた。

彼女には毎朝のように抜かされていた。

しかし、背中を見ることのできる時間はだんだんと長くなっていた。

*

数ヶ月後。

ついにタカシは彼女と並んで走れるようになっていた。

タカシは彼女に並ぶと勇気を振り絞って挨拶をした。

前々から抜かれるだけだったとはいえ、もう二人は顔見知りになっ
ていた。

タカシは慣れないけれど一生懸命に話した。

すると彼女も色々と言ってくれた。

二人の仲は、二人の足取りのように加速していった。

そのうち、暇を見つけてはランニングコースの一部である公園でお昼を食べたり、テニスをしたりするようになった。

なんとなく二人は昔からの知り合いに会ったかのようなシンパシーを感じていた。

そしてタカシは一生分の想いを乗せ、彼女に告白した。

彼女は泣いていた。

泣きながら「ごめんなさい」と繰り返していた。

タカシはそれでも諦め切れなかった。

気になってしょうがなかった。

余りにも彼女が悲しい目をして謝るから。

タカシの想いを真剣に受け止めた彼女は、涙の理由を教えてくれた。

彼女もタカシに惹かれていること。

タカシの気持はとても、とても嬉しいこと。

そして彼女が『男性』であること・・・

*

彼女は一年前に性転換手術を受けていた。

「それでも」とタカシは諦めなかった。

だが彼女は頑なに拒んだ。

「親や外間があなたを苦しめる。あなたの仕事なら尚更」と。

「結婚も子供もできない自分と付き合ってもあなたを傷付けるだけだ」と。

人を信じきるには、自分の人生を人に捧げるには、彼女は多くの傷を心に負いすぎていた。

タカシの心に人生二度目の紅蓮の炎が燃え盛った。

タカシは彼女に「待ち続けてほしい」と言って、彼女の前から姿を消した。

*

数年後。

彼女もこれで良かったんだと悲しい目をしながら、タカシのことを忘れようとしていた。

『コンコン』

ドアをノックする音が聞こえ、のぞき窓から見るとタカシが。

数年ぶりに見る愛しい人が玄関の前に立っていた。

彼女は、互いのためにも居留守を決め込んだ。

すると、外からアノ声が、あの愛しい人の声が聞こえてきた。

「僕は君を愛している！」と。

「テレビを見て欲しい！」と。

無造作に点けられていたテレビから絶叫するリポーターの音が響いた。

「繰り返します！只今、議会にて法の改正が可決されました。改正内容は『同性の婚姻を認める』というものです。繰り返します……

涙が溢れた。

そして彼との思い出が同時に溢れてきた。

『待ち続けてほしい……』

彼女は家から飛び出し、タカシを抱きしめた。

彼女は「ごめん、ごめん、ありがとう」「ただそれだけを繰り返した。
タカシは「官僚の裏仕事も役に立ったな」と疲れた顔でほほ笑んだ。
次いで真剣な顔で「結婚してくれるか」と囁いた。

*

彼と彼女は青空の下にいた。

二人の間に隔てるものはもう何もなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4231g/>

想いのチカラ

2011年3月21日00時45分発行